

地域密着型サービス評価の自己評価票

(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着サービスとしての理念を明記した。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「その人らしさを大切に」をモットーに毎日のミーティング等で課題を話し合い、統一したケアの充実を目指している。	「その人らしさ」に視点をもち、個々の意向に沿ったケアを行なっている。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	運営推進会議において行事等の活動報告や、入居者様方の状況についての説明のほか、ホーム独自の広報を発行。また、行事への案内・参加を呼びかけている。	ご家族様のほか、運営推進会議の役員の皆様、面会に見えられた方々に、認識していただけるよう努力している。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	行事案内の回覧、案内状の発行。散歩や買い物時に近隣の方との挨拶・会話をしている。	○ 徐々に認知度は上がっているが継続して取り組みたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の祭りへ見学に行くことはあるが、あまり活動へは参加できていない。同一地域にある法人内の通所サービス施設との交換交流会を実施している。	○ 今後、各方面から情報を収集し、地域への参加を増やしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の高齢者の方々への支援は取り組めていない状況である。	○	今後、地域の方々へ出来る事は何かを思案中である。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価、自己評価について、職員会議等にて報告・意見交換を行ない、サービス向上・改善に向けて努めている。評価を大切にし、一連の過程を全職員で取り組んでいる。	○	評価を行なうことにより、ケアの基本・充実につながると考え、全職員で検証していきたい。また、改善点の取り組みを継続的に行っていけるよう努力していきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回実施。各役員から身近な質問、新聞などから情報を得ての質問に対し意見交換がなされている。今後とも継続していきたい。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村との連携は事業の一環として重要な事ではあるが、現時点では何も出来ていないのが現状である。	○	管理本部・管理者・職員が話し合い、今後どのような進め方をすればよいか検討していきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度が必要と思われるケースがあり、ご家族様にパンフレットを渡し検討をお願いしたが、必要な時に支援できる体制は万全とはいえない。制度について全職員が内容を理解できているとはいえない。	○	今後、勉強会の機会を持ち職員の理解を深めていきたいと考えている。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	夜勤の2名体制によりケアの充実・虐待防止に努めている。	○	研修会・勉強会への参加の実施

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をかけて説明を行なっている。重度化や見取り、医療連携体制についての説明の他、料金等ご家族様の質問に対し説明、同意を得ている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様の気持ちをその言動から察する努力をし、全職員が認識するようミーティング等により日々の運営に活かすようにしている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	健康状態に変化があった場合は随時ご家族様へ連絡している。面会時にも日常の生活状況を報告、情報交換を行なっている。広報(隔月)を発行し日常の様子をお知らせしている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や家族会、運営推進会議時に意見を求めている。管理者が苦情受付の窓口となり対応に取り組んでいる。年に1回懇親会を実施しご家族様との交流の機会を設けている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回職員会議を開き意見・提案を聞く機会を設けている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入居者様に影響のないよう必要に応じて職員配置の調整を行なっている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者様、ご家族様との信頼関係を構築するためにも慣れ親しんだ職員が対応が必要と考えている。異動については馴染みの関係を維持するため極力控えている。また、引継ぎを十分に行なっている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修にはなるべく多くの職員が参加できるよう努力している。研修報告は職員会議で発表している。	○	誰でも気軽に見れるようファイリングの充実を図りたい。
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH定例会に参加し、他事業所との交流を通して意見交換やケース検討の機会を持ちケアに活かしている。	○	職員が交代で交流の機会を持ち全職員で質の向上に努めていきたい。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員会議・ミーティングにて活発な意見交換を行ない、一人で抱え込まないように配慮している。常にコミュニケーションの機会を持てるよう会議終了後など食事会を実施している。	○	職場での雰囲気や大事にし、職員間での会話が長く持てるようにしている。
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	一連の流れに添って業務を行なっているが、個々の得意とする分野に注目し発揮していただいている。また、活かしていけるような環境作りに努めている。資格取得に向けて有資格者との質疑応答をおこなっている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前調査でご本人様、ご家族様、居宅ケアマネより情報提供していただき生活状況の把握に努めている。ご希望に対し、サポートしていけるよう工夫している。	○	ご本人様・ご家族様の困っていることなどにも目を向け支援できるよう今後も努力したい。
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族様の苦労や経緯について把握できるよう時間をかけてお話を伺っている。何うことかかえている問題が少しでも軽減され次の段階へのステップにつなげている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様・ご家族様の希望や状況等を確認し改善に向けた支援が出来るように努めている。また、緊急を要している場合は他の事業所へ紹介するなどの対応をしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前調査等により職員の顔を覚えていただくようにしている。また、入居当初はご家族様等に頻繁に面会に来ていただくようお願いしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	生活歴をもとに、入居者様の得意な事・その方らしく過ごせるよう支援している。また、人生の先輩として共に暮らす同士として学び支え合いながら生活している。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の状況報告や職員の思いを伝える事により入居者様を支援していくための協力関係が構築できるのではと考えている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご本人様やご家族様の希望・状況を考慮し外出や外泊により共に過ごすことを提案したり、行事への案内を出し参加していただき、より良い関係、きずな深めていただけるように努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容院へ通っている方、友人・親類の家に電話をされるなど、一人ひとりの生活習慣を出来る限り尊重している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者様の声にゆっくと耳を傾け楽しく過ごす時間や気の合う仲間と過ごせる環境作りなど入居者様同士の関係が円滑になるよう時には職員が間に入り支援している。		居室にこもりがちな方には個別での対応を行なっている。職員が入居者間の情報を共有できるよう申し送りなどで話し合っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他事業所へ移られた方にも職員が面会に行くなどしている。また、ご家族様がホームに立ち寄り世間話をされることもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話の中からお本人様の希望や意見を伺い把握するよう努めている。また、ご家族様からも情報提供をしていただき職員間で把握できるよう話し合いを行なっている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前調査にてご本人様、ご家族様より生活状況について伺っている。ご本人様の日常生活や表情からも読み取り把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個々の生活リズムを把握し、日々の言動から入居者様の出来る事を見つけ尊重したケアに努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者様、ご家族様には日常生活や面会時に意見や希望を伺い取り入れている。必要時には、主治医や訪問看護との意見交換を行っている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1度、入居者様、ご家族様の意見や希望を伺い介護計画の見直しを行なっている。変化に応じて作成している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録にてケア内容や工夫等を記入し情報を共有している。その内容やカンファレンスを元に介護計画の改善をしている。介護計画実施表にてチェックを実施している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者様、ご家族様の状況に応じて通院や送迎など必要な支援を行ない満足度の質を高める努力をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	安心して地域での暮らしを継続できるよう、なじみの方々等に自由に会える機会を作っている。地域の区長・民生委員への協力を呼びかけている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居者様の希望により民間の訪問理容サービスを利用している。法人内の通所サービスと行き来している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加しているが、協働しているとはいえないのが現状である。	○	今後、関係の構築を行なっていきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人内の協力医の他、以前からのかかりつけ医での医療を受けられるようご家族様へ情報提供を行なっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医にかかりつけの入居者様があり、相談や助言をいただいている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	入居者様・職員と訪問看護とは気軽に相談できる関係が出来ており健康チェック、医療面での相談のほか緊急時の対応など提携医療機関との連携がとれる体制が確保されている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には医療機関との情報交換を随時行なっている。職員は見舞いに伺い、ご家族様とも状況等の情報交換をしながら退院支援に結びつけるようにしている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化および看取り介護に関する指針を作成し、家族会にて説明している。また、面会時の会話の中で終末期にむけての意向を伺っている。ご家族様と医師の話し合いの場を設けている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ホームでの看取り介護は前例がない。重度化の場合は、ご本人様ご家族様の意向を踏まえ、医師、看護師、職員が連携を取りケアを行なっている。	○	今後、終末期への対応が考えられるが、ご本人様ご家族様の意向を尊重し、各部門と連携をとり安心・納得した最後が迎えられるよう努力していきたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	これまでの暮らしが継続できるよう、生活環境、支援の内容、注意点について情報提供を行なっている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員会議やミーティング時に日々の関わり方について話し合い・意見交換を行ない入居者様のプライドやプライバシーを損ねない対応への努力を行なっている。		
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	ご本人様より意思表示があった場合、また声がけを行ない希望が叶うよう出来る限りの支援をおこなっている。外出や食べたい物などの声に対し、ドライブ、買い物等を実施している。継続していきたい。		
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一連の流れはあるが、個々のペースに合わせ入居者様の意に沿った過ごし方が出来るよう支援している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の意向で決め、見守り・支援の必要な時は手伝っている。また、自己決定の出来ない方には職員と一緒に考えている。ご本人様の気持ちを考慮し出来るだけ個別的な支援を行なっている。		
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は基本的に職員が併設施設の献立を参考にしながら作成している。下ごしらえ、配膳下膳など一緒に行なっている。入居者様と職員と一緒に楽しく食事できるような環境作りをおこなっている。		
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の希望により、買い物にいつている。会話の中から好みを把握しミーティング等で情報の共有を図っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	時間や仕草を観察・把握し、定期的な声かけ・誘導にて排泄を促している。チェック表を使用し排泄のない入居者様には時間を見ながら誘導支援を行なっている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日を決めてしまっているが、要望がある際はいつでも入浴していただいている。	○	時間帯等についても要望のある際は対応を検討していきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個々に合わせた活動への参加を促し、ゆっくり休息や安眠が出来るよう支援している。天気の良い日は外気浴、散歩、軽体操を実施している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	積極的にお手伝いをしてくださる方が多数いらっしゃる中で、常に労いの言葉をかけるようにしている。また、個々の力が発揮できるような作業をお願いし行っている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様の協力、金額を確認した上でお金を所持されている方もいる。買い物に同行し、支払いを行なっていただく事もあるが、職員へ頼む方が多い。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ご本人様の希望に応じて屋外へ出て季節感を感じていただき気分転換を図れるように支援している。散歩、買い物、ドライブに出かけている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	入居者様からの希望があった際はバスレク等の行事に取り入れ、日程等の調整を行ない外出支援を行なっている。季節ごとにお花見、紅葉見学のほか、地域の祭り、お墓参り、買い物、食事会、法人内の通所施設などへ行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様より電話の希望があった際は職員が電話をかけご家族様や友人の方に状況説明をおこなってからご本人様へとりついでいる。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族様等の面会者方がいつでも気軽に訪問しやすい雰囲気作りの努力をしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者様の状況に応じて身体拘束についてのカンファレンス・情報交換を行っている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	立地場所の特性から防犯のため施錠している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	入居者様の所在をきちんと把握するよう努めている。夜勤帯もユニット毎に状況確認を実施している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居者様の状況に応じて、職員間で情報を共有し危険を防げるよう取り組んでいる。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故が発生した際は速やかに事故報告書の作成、事故原因と予防対策を検討し、ご家族様への説明・報告を行なっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	応急手当の研修会には参加していない。緊急対応についてのマニュアルは作成してあるものの全職員が把握できているとはいえない。	○	11月に心肺蘇生法についての講習を受講予定。(グループホーム協会にて)
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し併設の老健等と共に消防署の協力を得て年2回避難訓練を実施している。	○	11月に災害時の避難等についての講習を受講予定。(グループホーム協会にて)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	日常の活動や外出することにより、リスクが高くなる危険性はあるが、環境整備等により最小限に抑える努力をしている旨を伝えている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	職員は入居者様一人ひとりの体調について把握しており、表情や食事量、バイタルチェック等により変化が見られた場合は訪問看護に連絡し、状態に応じて医療機関への受診につなげている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をファイリングし、全職員がいつでも内容を確認できるようにしている。変更時は受診ノートへの記入を行なっている。投薬時は手渡し服薬確認、または介助にて服用していただいている。服薬チェック表を作成し、記入している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分補給を中心に行なっている。また、全員で出来る軽体操や散歩など身体を動かす機会を増やしている。排便困難な場合はかかりつけ医への相談を行なっている。排泄チェック表への記入、確認。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後に歯磨きの声かけを行なっている。状況に応じて見守りや介助等を行なっている。就寝前は入れ歯の洗浄を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分表を作成し毎日チェックしている。食事量は状態に応じてチェックしている。チェック表に基づき、水分量の少なめな方には好みの物、ご家族様から差し入れていただいたものを飲用されている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	法人内の回覧や新聞・ニュース等で情報収集を行ない、早期対応に努力している。インフルエンザについては入居者様・ご家族様に同意をいただき職員と共に接種している。ノロウイルス対策として手洗いの励行、ペーパータオルの使用等を行なっている。感染症についてのマニュアルを職員に配布し、周知徹底を図っている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板やふきん等は毎回漂白消毒している。食器、調理器具等は熱風消毒し衛生管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前にご家族様、近隣の方からいただいた花を植え、大切に育てている。誰でも立ち寄りやすいように心がけている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食事作りのまな板の音やご飯、味噌汁の匂いなど五感や季節を感じられる飾りつけなどを意識的に行なっている。また、掲示物、行事等で季節感を表している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでテレビを見て過ごされたり、玄関前のソファで犬が遊ぶ姿を見て楽しまれたりと、入居者様同士でくつろげるスペース作りを行なっている。入居者様それぞれが落ち着く場所を選んで過ごされている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの椅子やベッド、仏壇など自宅で使用されていたものをおいている。居心地の部屋作りに向けて取り組んでいる。仏壇へ供えるため花を買ったり、野花を摘んだり、ご本人様の希望に沿って行なっている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなく換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	定期的に空気の入替えを行ない換気に努めている。入居者様に合わせて温度調節を行なっている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	空間が広く、生活リハビリに適している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かし、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	環境整備に努め安心した生活が送れるよう工夫していきたい。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関前を利用し花植え・草取りなどを行なっている。車の往来に注意しながら散歩をしている。畑での作業は入居者様方の指導を受けて行なっている。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の
		○	②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)